

MIE UNIVERSITY NEWSLETTER

1996. 3. 28

ウェーブ三重大

7

号



三重大学広報委員会



表紙タイトル 『ふるさとの春』



表紙デザイナープロフィール

宮田 修平

教育学部教授（芸術学士）

1933年生

Profile of cover designer

Syuhei MIYATA

Professor, Faculty of Education

(Bachelor of Arts)

Born in 1933

Photo : Tsutomu NAKAMURA

目 次

Contents

平成7年度 三重大学公開講座
Mie University Extension Lectures '95

- | | |
|---|----------------------------------|
| 1. 人文学部(Faculty of Humanities and Social Sciences)
時代はエイジレス
Ageless Ages | 松川正毅 1
Tadaki MATSUKAWA |
| 2. 教育学部(Faculty of Education)
マルチメディア入門
Introduction to Multimedia | 下村 勉 3
Tutomu SHIMOMURA |
| 3. 医学部(Faculty of Medicine)
高齢化時代を生きる
Living in an Aging Society | 矢田 公 5
Isao YADA |
| 4. 工学部(Faculty of Engineering)
感性を科学する
—先端技術と感性の融合—
Scientific Approaches to the Sense
—Unification of Modern Technology and Human Being— | 駒井 喬 7
Takashi KOMAI |
| 5. 生物資源学部(Faculty of Bioresources)
生物資源と私たちの暮らし・その2
Our Life and Biological Resources, Part 2 | 渡邊 巖 9
Iwao WATANABE |
| 6. 生物資源学部附属練習船勢水丸(Faculty of Bioresources Ship)
洋上体験教室「海に学ぶ」
On the Educational Experience on the Ship for "Studying the Sea" | 石倉 勇 11
Isamu ISHIKURA |
| 7. 医療技術短期大学部(College of Medical Sciences)
21世紀の地域医療と看護
Regional Medical Care and Nursing in the 21st Century | 野口 孝 13
Takashi NOGUCHI |
| 8. 第3回法医病理夏期セミナー 15
—第3回国際法医学シンポジウムジョイントミーティング—
The Third Summer Seminar of the Japanese Association of Forensic Pathology
—Joint Meeting of the Third International Symposium Advances in Legal Medicine— | |
| 9. 第38回日本小児血液学会総会 15
38th Japanese Pediatric Hematology Association | |
| 10. 第26回日本腎臓学会西部学術大会 16
The 26th Annual Meeting of Western Section of Japanese Society of Nephrology | |
| 11. 第90回日本薬理学会近畿部会 16
—細胞シグナリングと遺伝子発現機構—
The 90th Kinki Branch Meeting of the Japanese Pharmacological Society
—Cell Signaling and Gene Expression— | |

英文は日本語の要約です。

The English is a condensed version of the Japanese.

時代はエイジレス Ageless Ages

1995年度の人文学部公開講座は「時代はエイジレス」と題して、10月7日から11月18日にかけて開催された。

老人問題を対象とする予定であったが、直接それを面前に出すと、一般受けしないと思われたので、タイトルには苦心した。老人問題自体、非常に重要な問題であるにもかかわらず、敬遠される傾向にあり、一般受けしないテーマであるというのが、公開講座委員の意見であった。そこで、今回は、問題提起の意味を込めて、総論的な問題を中心にし、興味を持っていただくことを主たる目的として、タイトルは、ややファジーな「時代はエイジレス」とした。タイトルに、老齢期であれ若い時と関連性があるという意味を込めた。

人文学部の公開講座は、毎年人気があり、100名の募集に対して90名を超える申込み者がいた。今年は、例年にならい、ダイレクトメール、ポスター等で広報活動を行ったが、登録者は76名であった。老人問題を扱うという公開講座のテーマに関心が持たれなかったのか、広報活動に問題が生じてきたのか、結果的には受講生が減少した。

公開講座終了後のアンケート結果によれば、広報活動に、ダイレクトメールが、大いに威力を発していることが理解できる。ただ、この方法であれば、参加者がよく似た人になってしまい、いわゆる常連さんが多くなっていき、この手段にだけにたよってれば、新しい参加者が少なくなる。このことは、マンネリ化を招き、公開講座の運営それ自体に問題を生じることになりかねない。いくら、良いものを準備しても、その企画が知られていないようでは、意味がなく、今後広報の活動には改良を加えなければならぬ。

人文学部の公開講座は、一般教養を高め、自己啓発のためにという動機を持って受講されている方が大半を占めている。それほど、高度な内容ではなくて、わかりやすく、未知の世界を切り開くことが求められている。予習も復習も強いては必要なく、いわゆるその場で理解できることが重要である。その上で、興味があれば、より深く学ぶ

Extensions Lectures had been held by the Faculty of Humanities and Social Sciences, Mie University every Saturday from Oct.7 to Nov.18 in 1995. The selected topic was "Ageless Ages". Six lecturers gave



広瀬教授による開会の辞
Opening by Professor Hirose

special lectures concerning how old persons live in their old ages in terms of vacation, religion, love, welfare, pension system, etc.

On the first day, Mr. Shuichi Tsubata explained that human life has two aspects: working and rest. In the older ages, people have to take a rest period. Therefore, they must learn how to rest when they are young.

Professor Akira Saito outlined religious problems both in the old age and the young age.

Professor Katsuya Kodama introduced the Swedish concept of welfare called "Nomalization". This concept is becoming nowadays the center of public attention.

Professor Teiji Watanabe discussed the aged problems, such as the medical treatment of the old people, etc.

Mr. Sin-ichi Kobayashi of Tsu Social Insurance



津端氏の講義
Lecture by Mr. Tsubata

ことを可能にすることも必要であろう。この意味で、多くの自習を前提とする、学生相手の講義とは異なる(しかし、現在の多くの日本の大学生は、こうはいかないだろうが…)。

講義は、まず10月7日に、自由時間評論家の津端修一氏に「私の現代・田舎暮らし」と題して、ヴァカンスに

ついて講演願った。人生には働く側面と休む側面があり、老年期はその後者の側面が前に出てくる。年をとってからにわかに休み方など身につくはずはない。うまく人生を送るために、若い時から、休む知恵を身につけなくてはならないのはこういう意味においてである。受講生に新たな物の見方を提供したといえよう。

10月14日は人文学部の斎藤昭教授が「老いと若きの宗教現象学」と題して、宗教の問題を取り上げた。日本では今まで、宗教の問題に正面から取り組んだことは少なく、問題を知る上でも貴重な講演であった。宗教の問題は、何も老年期だけのものではないことは、オウム的事件からも明らかである。

10月21日には人文学部の兎玉克哉助教授が「ノーマライゼーションの発想と高齢者福祉」と題して、北欧特にスウェーデン福祉の基本的発想であるノーマライゼーションについて解説した。いろいろな立場の人を隔離することなく扱っていく思想であるが、現在世界で注目されている福祉の思想であり、世界の最先端の考え方の紹介であり、貴重であった。

10月28日は、人文学部の渡邊悌爾教授が「高齢社会の介護問題を考える」と題して、最近問題となってきた老人扶養、特に介護の問題を扱う。日本人独特の考え方なのか、今後だれもが不幸になってしまうような社会制度・意識は改良・改善していかなくてはならないであろう。

11月11日には、「人生80年時代の年金制度」と題して、元津社会保険事務所長の小林伸一氏が、年金制度について概説した。複雑な内容が、わかりやすく説明され、年金を知る良い機会になった。

11月18日は、「万葉は『万づ葉(よろずよ)』、万葉はエイジレス」と題して、恋の話で、美しく締めくくられた。

最終日には、持ち寄りのパーティーが開かれ、主催者側と、受講生の方々と交流の場が設けられ、和やかに歓談し、受講生から、「公開講座にきてよかった」という好評の言葉を頂きながら、1995年度の公開講座が終了した。



広岡教授の講義
Lecture by Professor Hirooka

Office outlined very plainly, the abstruse and complicated pension system in Japan.

Professor Hirooka gave us detailed instruction on Japanese ancient era, the "Manyo". He enthusiastically discussed that love is ageless.

On the final day, we held a farewell party, wich many people joined. Most of the audience deeply appreciated the series of special lectures.



渡邊教授の講義
Lecture by Professor Watanabe



筆者プロフィール

松川 正毅

人文学部教授(法学博士、私法学博士)

1952年生

Profile

Tadaki MATSUKAWA

Professor, Faculty of Humanities and Social Sciences

(Doctor of Law, Docteur en droit privé)

Born in 1952

マルチメディア入門 Introduction to Multimedia

教育学部では、日頃の教育研究の一端を公開し、教育関係者の継続教育の一機会として、また、地域社会へ寄与すべく、昭和61年から公開講座を続けてきた。とりわけ、教育実践研究指導センターにおいては、コンピュータやビデオの教育利用に関する公開講座の開催を続けてきた。1995年度は、最近、テレビや新聞で話題になっている「マルチメディア」をテーマとして取り上げた。マルチメディアは、文字に加えて、画像や音声・動画などを用いて情報が表現され、しかも利用者の選択に応じて情報が提供されるものである。今後の教育においては、マルチメディアを用いた情報発信の能力が重要になってくるとの考えから、マルチメディア作品の制作を中心とした公開講座を企画し、下記の要領で開催した。

平成7年度

教育学部公開講座「マルチメディア入門」の概要

日時：1995年8月28日(月)～29日(火)

会場：三重大学教育学部附属教育実践研究指導センター

参加者：教育関係者および市民一般

講師：下村 勉

(三重大学教育学部附属教育実践研究指導センター教授)

広瀬雄彦

(三重大学教育学部附属教育実践研究指導センター助教授)

使用機種：マッキントッシュ

使用ソフトウェア：ハイパーカード

内容：

8月28日(1日目)

午前 ●開講式

- マルチメディア及び使用するハードウェアとソフトウェアについて
- 基本操作(マウス・キーボード)実習
- マルチメディア作品を見る

午後 ●ハイパーカードによる作成練習(文字入力、

絵・図を描く、画像入力、音声入力など)

- マルチメディア作品の計画

8月29日(2日目)

午前 ●簡単なマルチメディア作品の制作

午後 ●インターネット入門(WWWの紹介)

- 成果(マルチメディア作品)の発表・交流会
- 閉講式

受講者は、38名で、高校生の16歳から最高齢者の66歳まで、幅広い年齢層の参加を得た。それぞれの興味・関心および技量に応じて、マルチメディア作品づくりに取

The Faculty of Education started this open class in 1986 with the aim of making part of the fruits of educational study open to the public. Particularly, the Center for Educational Research and Practice has held open classes on the educational use of computer every year.



受講者によるマルチメディア作品「地震」のタイトル画面
The first picture of multimedia work "Earthquake" produced by an attendance



マルチメディア作品「地震」の第二画面
The second picture of the multimedia work "Earthquake"

In 1995, we chose "multimedia" as a theme of the class, which is a current topic in the mass media. The class was held on the following subjects for two days, from August 28 to 29.

- What is multimedia?
- Practice of fundamental operations on a Macintosh computer.
- Exercise in making works by authoring software; HyperCard.
- Making simple multimedia works.
- Presentation of multimedia works.

The attendance at the lecture was 38 in total. The

り組んでもらった。できあがった作品は、カード(画面)の枚数にして、4~5枚程度で、多い人で6枚程度であった。内容やその表現方法はバラエティに富んでいて、とても楽しいものであった。

作品の内容をおおまかに分類し、そのキーワードをあければ次のようになる。

●ふるさと・観光地紹介：

鶴殿村、坂手島、清和小校区、南勢町、久居市、志摩スペイン村、龍神温泉、与論島、沖縄、インドネシア

●施設紹介：メッセウイング・みえ、大宮町昆虫館、三重県立水産高校、大学訪問、MSC

●祭り紹介：町内の祭り、鳥羽のお祭り、諸手船

●趣味紹介：観葉植物、熱気球、美食くらぶ、ことばあそび、JEWELRY、パッチワーク、Sunset Pops

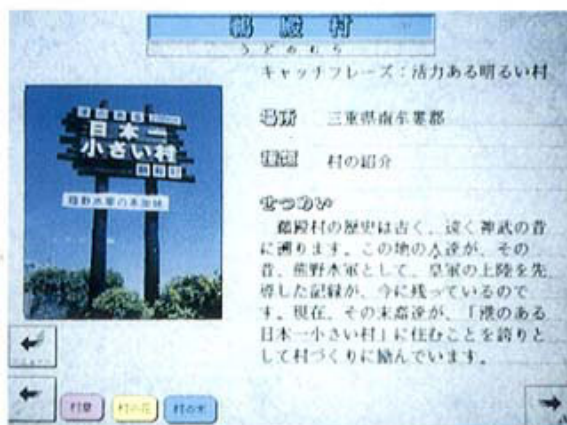
●その他：地震、地球環境、3人の孫、私の娘、色彩講座の終わりには、これら各自が作ったマルチメディア作品を発表し、成果の交流を行った。

また、今後の展開として、インターネット上のマルチメディア情報としてのWWW (World Wide Web) をデモンストレーションにより紹介し、受講者が自由にみる時間もあった。

公開講座の最後にとったアンケートから受講生の感想の一部をあげる。

- 写真を取り入れたり、ビデオを取り入れたり動きのある作品に感激しました。
- とにかく楽しかったです。MACに親しみがもてました。皆さん熱心な方ばかりで室内の雰囲気も良かったです。もう一日くらいあった方が良かったです。
- わかりやすく教えていただいて良かったです。2日間充実した時間を過ごさせてもらいました。できあがった作品も自分としては満足しています。
- はじめてマッキントッシュにふれて、操作を体験できたのがよかった。また、コンピュータを用いた多画学習の大きな可能性を発見できたことがよかった。
- 親切にご指導いただいたので、なんとか作品を作り上げることができました。しかし、もっと時間が必要だと思いました。
- 実際に操作することにより理解が深まった。経験別、習熟別に分けた方がよい。
- 情報化時代にあって、情報を選択できるマルチメディアの世界を肌身で感じる事ができた。
- マウスでほとんどのことができたり、プログラムでサブルーチンをつくるようなことが、ボタン作成でできてしまうのには、びっくりしました。

このように、受講者の感想はとても好評で、それがこの公開講座の継続のささえになっていると感じている次第である。



受講者によるマルチメディア作品「鶴殿村」のタイトル画面
The first picture of multimedia work "Udono Village" produced by an attendance



受講者によるマルチメディア作品「3人の孫」のタイトル画面
The first picture of multimedia work "My three grandchildren" produced by an attendance

age of attendance varied from 16 years old to 66 years. They were engaged in making multimedia works according to their own interest and skill. The subjects of their works were of great variety. It was very interesting to look at them working.

Their answers to a questionnaire on their impressions of this open class were favorable to us. It seems that these will be the motive power for the continuation of the open class.



筆者プロフィール

下村 勉

教育学部附属教育実践研究指導センター教授(工学博士)

1951年生

Profile

Tsutomu SHIMOMURA

Professor, Center for Educational Research and Practice, Faculty of Education (Doctor of Engineering)

Born in 1951

高齢化時代を生きる Living in an Aging Society

本年度から医学部主催の公開講座が開かれることになり、11月2日～4日の3日間の日程で開催された。これまでは三重大学主催の公開講座には毎年参加していたが、医学部が単独で主催する公開講座は今年がはじめてであった。



医学部長の開講式のあいさつ
Opening address by Professor Yatani of Dean of Faculty of Medicine

公開講座を開設するにあたり、その目的として「三重大学医学部において研究および診療の一端を一般市民および医療従事者にわかりやすく解説することにより、疾病に対する知識並びに疾病予防への啓蒙をはかる」ことを目的とした。今年の講座の主題は「高齢化時代を生きる」をメインテーマにして、最近のトピックスの3疾患を話題に取り上げ、本学部でその領域を専門としておられる先生を講師としてお願いし、以下の要領で行った。

開催日	講義題目	講師
11月2日(木)	骨粗鬆症の 予防とその対策	整形外科 浜藤 啓広講師
11月3日(金)	老化と脳神経外科疾患	脳神経外科 霜坂 辰一講師
11月4日(土)	老後の脳の健康と痴呆	神経内科 葛原 茂樹教授

第一日目には医学部長の出席のもとに開講式が行われたあと、講義が行われた。浜藤講師は骨粗鬆症について解りやすく解説され、その予防と対策としては骨量が増

The theme of the First Extension Lecture of Mie University, School of Medicine was "Living in an Aging Society," and was held for three days, November 2-4 in the lecture room No.2 of the Clinical Lecture Wing of Mie University Hospital.

In this course, three topics chosen among the various diseases associated with the elderly were taken up for discussion:(1) the prevention and management of osteoporosis, by Dr. Sudo;(2) neurosurgical diseases of the elderly, by Dr. Shimozaka, and (3) neurological health and dementia for the elderly, by Dr. Kuzuhara. The lectures were clear and easy to understand.

Following the talks, there were lively question and answer periods as the speakers responded to many questions and opinions from the audience.

Among the original 53 participants, 50 (20 male, 30 female) were honored with a certificate of completion for the course.



講義のひとつま
Shot at the lecture

加する小児期、思春期の間に骨量を如何に増加させておくかが大切で、日々の食事や適度な運動などライフスタイルの改善が重要であること、また骨粗鬆症の危険因子であるとされている過度の飲酒、過度の喫煙、過度のコーヒーの摂取を避けることが必要であるなどを強調された。

第二日目の霜坂講師は、昨年一年間に本院脳神経外科へ入院した患者の疾患および年齢分布を示し、脳神経外科的疾患は高齢者に必ずしも多いとは言えないがと前置きされ、成人病として恐ろしい脳疾患の一つであるくも膜下出血について詳しくお話しになった。くも膜下出血の原因の一つである脳動脈瘤については早期発見ができれば治る病気であることを強調され、脳ドックの重要性や早期の脳神経外科への受診の必要性を述べられた。

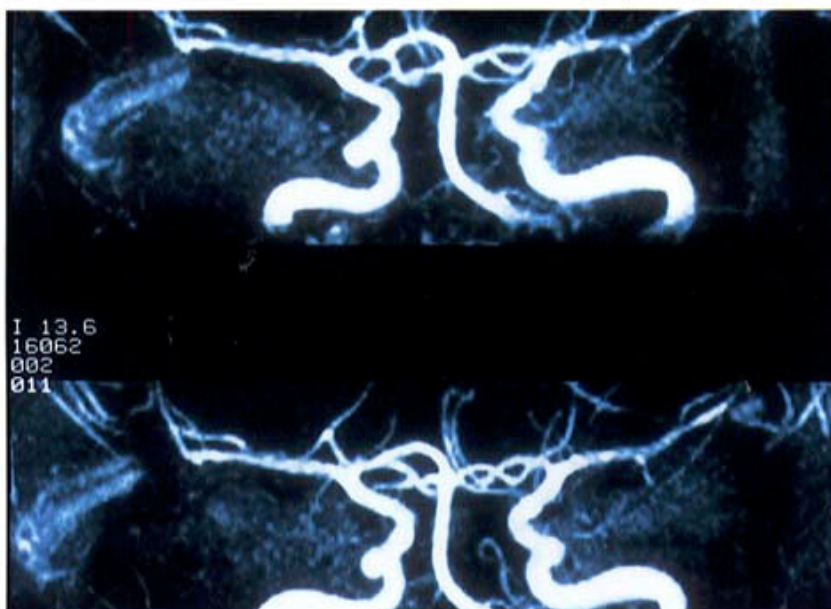
第三日目には葛原教授から老人性痴呆について講義があった。痴呆症には脳血管性痴呆とアルツハイマー型痴呆とあり、日本人は前者が多かった。しかし最近はその比率が接近しており、前者は高血圧、糖尿病、心疾患および肥満などの予防で発生を予防できるが、アルツハイマー型痴呆については、現在においてもその発生の原因がわかっておらず、予防法や治療法もまだ確立されていないとのお話があった。

また、痴呆老人を抱える家庭の悩みと問題について対応してくれる機関および福祉制度をまとめて報告されたが、受講者からその点に関して多くの質問があった。

受講者定員は100名を予定したが、準備が遅れたことで一般市民へのアピール期間が短かったことなどの理由で、受講者は59名であったが、各講師からのわかりやすい講義に対して多くの質問がでるなど、活気に満ちた公開講座であった。

最終日には矢谷医学部長から受講者全員に修了書が手渡された。

平成8年度も継続して開催を予定している。



MR血管撮影による脳血管像。「脳ドック」で、安全に、脳卒中発病前に診断が可能となった。Film from MR angiography. MRA can reveal the major brain arteries clearly before the onset of stroke.



公開講座修了書授与
Participants were given a certificate of completion for the course from Professor Yatani of Dean of Faculty of Medicine



筆者プロフィール

矢田 公

医学部教授 (医学博士)

1940年生

Profile

Isao YADA

Professor, Faculty of Medicine

(Doctor of Medicine)

Born in 1940

感性を科学する
—先端技術と感性の融合—

Scientific Approaches to the Sense

—Unification of Modern Technology and Human Being—

日本の産業界はここ半世紀の間、工業立国を旗頭に、戦後の復興と物質的に豊かな生活を求めて、大量生産、

大量販売による高利潤と高能率を追求してきた。現在、我々は物質的には非常に恵まれた豊かな生活を築き上げ、甘受しているが、獲得した“もの”と引き換えに失った“もの”が余りにも多いことに気付く。化石エネルギーの大量消費や使い捨てによる資源の浪費から来る地球環

境の汚染はもとより、失った“もの”の中に感性あるいは主観に基づく“豊かな人間性”を培う文化が含まれることに愕然とする。この失った“豊かな人間性”を回復するための工学はどう在るべきかを考える一助として平成7年度三重大学工学部公開講座では「感性を科学する」—先端技術と感性の融合—なる講座を立案し、平成7年7月24~25日に開催された。講演内容は以下のとおりである。

1. 科学を感性する—先端技術における感性の役割—
機械工学科 教授 妹尾充史
2. 生体力学センサー・アクチュエーター
—生体の情報収集：みる、聞く、触るのメカニズム—
機械工学科 教授 徳田正孝
3. 耳寄りな話 電気電子工学科 教授 久野和宏
4. 画像処理と感性 電気電子工学科 助教授 鶴岡信治
5. 設計者の目—設計者はどのように感じ考えるか—
建築学科 講師 富岡義人
6. 感性とパターン認識
情報工学科 助教授 木村文隆

講演1では感性と科学のそれぞれの定義あるいは理念を仏典“般若心経”の教えと対比しながら明解に論説された。即ち、科学はデカルトの二元論以来、明らかに認識できるもの、つまり物質の持つ諸条件とその因果関係

The '95 Extension Lectures hosted by the Faculty of Engineering, Mie University, entitled “Scientific

Approaches to The Sense” was held at the main hall of the faculty on July 24-25,1995.

The following 6 lectures were organized and presented

1. Conceptual summary of the science and the sense, by Professor M. Seno, Department of Mechanical Engineering.
2. Mechanism of hearing in the ear, by Professor M. Tokuda, Department of Mechanical Engineering.
3. Mysterious talks concerning sounds and the sense for hearing, by Professor K. Kuno, Department of Electrical and Electronic Engineering.
4. Recognition of hand written words by the computer, by Associate Professor S. Tsuruoka, Department of Electrical and Electronic Engineering.
5. The sense for the architectural design, by Lecturer Y. Tomioka, Department of Architecture.



徳田教授の講義
Lecture on "Mechanism of hearing in the ear"



超音波ドップラ信号からの局所心筋の速度・加速度計測
Measurement of Velocity and Acceleration for Regional Cardiac Wall Using Ultrasonic Doppler

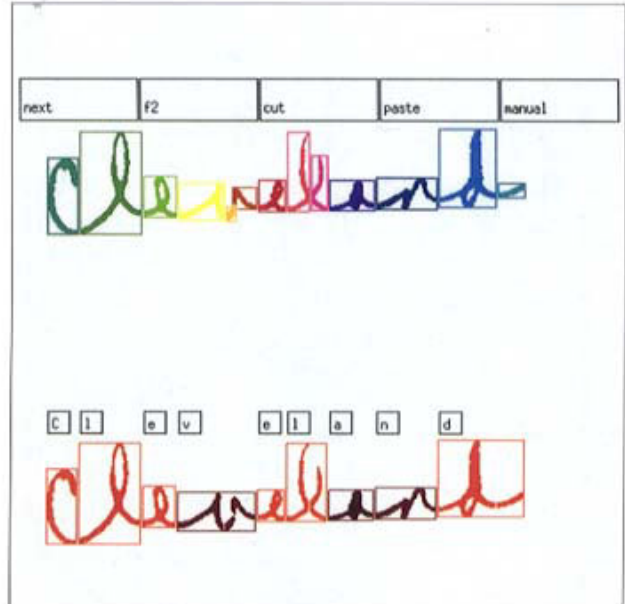
により自然現象は説明できるという立場から、客観的実証主義の指導原理を得て飛躍的に発展してきた。近代科学は技術の基礎として産業革命を引き起こす原動力になり、現代の豊かな物質文明を築き上げる基礎となっている。これに反して、所謂感性は五感の働きとこれらを通して得られる主観的な感覚と思考に基づく好き嫌い、或は若干の社会的な客観性を持つ美的感覚と意識である。これは実体のない主観的意識を対象とした精神的世界に属するもので本来科学の対象とはならない。2500年前に釈尊の説いた仏説の中では五感に六官、六境、六識として脳神経器官或は心、魂が第六番目に加えられている。精神的世界を含む森羅万象を支配する理念を解釈する指導原理が“般若心経”の中には存在する。このことを突破口として科学から精神的世界にアプローチするためには究極の量子力学であるマリオンクス（電子操り学）の体系化が急務であると提案された。

一方、科学を基礎とする技術の世界、特に物造りの世界では古くから感性を研ぎすました職人さんが造る“もの”は、それを所有したい、観賞したい、使用したいなど、消費者の感性に訴える力を持つものが高い評価を得てきた。物から“もの”へ実存しない概念或は意識の付与が価値を生んできた。しかしながら、近年の産業界では大量生産する商品が再び“もの”から物へ逆行してきている。このような観点から講演2、3、では音、聴覚、生体の聞く行為の機構などに関して論説し、講演4では画像処理とそのデータ化の過程での感性の役割について論説、講演6では感覚器官で得られた情報を処理、認識し意識或は概念に至る過程の理論的、実験的研究の現状を解説していただき、さらに講演5では最近、機能或は効率面で規格化、規制の厳しい建築設計の中での感性の役割或は、効率と美学の攻め合いについて論説していただいた。いずれも豊かな物質文明の中できちんと即物的になりがちな工業製品を再び人間性豊かな“もの”へ復帰させるための工学からのアプローチの現状を取り上げたものである。戦後50年の節目を迎え、また、21世紀を間近にして政治、経済、産業から個人の生き方まであらゆる面でなんらかの見直しが求められている。さらに、コンピュータソフトを始めとしてノウハウ、システムなど物ではない主観的意識とか概念のみで商品として価値あるものとされる時代が迫ってきている。益々、感性に基づく主観的意識の重要性が増加してくるものと予想された。

熱心な聴衆と熱心な講演者に恵まれ、有意義な二日間に亘る公開講座は無事終了した。立案から開催まで関係された多くの方々に深謝したい。

6. Pattern recognition and the human sense, by Associate Professor H. Kimura, Department of Information Engineering.

These lectures enhanced the understanding of the pre-cut-day status of the products and the sense for sight, hearing and touch.



分節認識による手書き英単語認識

初期分節の結果（上段）

並行処理による分節認識の結果（下段）

初期分節で細分した単語（上段）と辞書中の単語とのマッチングによって分節・認識した結果（下段）、認識結果では1文字ずつ正しく分節され、文字認識の信頼度が高い文字ほど鮮やかな赤で表示される。ミシガン大学、米国郵便公社との共同研究。

Handwritten word recognition by segmentation-recognition.

Result of initial segmentation(upper row).

Result of concurrent segmentation-recognition process(lower row).

Initially over segmented input word is matched against to each lexicon word. In the result of segmentation recognition, characters are correctly segmented, and the one with higher confidence of character recognition is represented with brighter red. Joint research with the University of Michigan, and the United States Postal Service.



筆者プロフィール

駒井 喬

工学部教授（理学博士）

1939年生

Profile

Takashi KOMAI

Professor, Faculty of Engineering

(Doctor of Science)

Born in 1939

生物資源と私たちの暮らし・その2 Our Life and Biological Resources, Part 2

前年に引き続いて、いろいろな環境にいる生物の生活の変化がどう私たちの生活に関わっているのかを主題にしました。8人の先生の講演、かまぼことちくわの手造り実習、それに三重県水産技術センター伊勢湾分場の見学を織りまぜて9月2日から10月14日まで毎週土曜の午後を開講しました。



カマボコやちくわの製造実習で自分たちで作った製品を味わう。
Learning how to make fish pastes, and enjoying their products

受講者は49名(男子26名、女子23名)でした。実習室の設備の関係で人数をこれだけに抑えなければなりません。高校生から70歳を超える方まで、いろいろな世代の方が集まりました。職業も、会社員、公務員、自営業者、教員、主婦、定年生活者など多岐にわたっていました。

丹羽栄二、加納 哲、大井淳史先生の指導で行われた海産物ねり製品、つまりカマボコやちくわの製造実習では自分たちで作った製品を味わって楽しんでいました。

前川行幸、岩城俊昭、佐久間美明先生の案内で白子にある三重県水産技術センター伊勢湾分場を訪れてノリやアサリの育て方、採取法を学びました。

法貴 誠先生は“環境とバイオマスエネルギーの利用”という題で、産業廃棄物である有機物の有効利用をもとにした生物体に貯えられた太陽エネルギーを利用する新しい方法を紹介されました。

永田豊先生は“人工衛星から見た海”という題で人工衛星から海をみると、海の温度、栄養状態の広い範囲の変化が読みとれるので、海洋環境の変化の様子がつかめ、潜在的漁場の予測にも役立つことを話されました。

森下達雄先生は“さかな—養殖魚と天然魚—”という題で、ハマチとマグイを例に天然ものと養殖ものの質の

The Faculty of Bioresources conducted Extension Lectures in Sept-Oct 1995. The title was “Our Life and Biological Resources”, following the similar title in 1994. Our human life is sustained by the co-existence with diverse biological resources on our planet.

The Lectures aimed at introducing recent scientific and technological breakthrough contributed by the Faculty members, and familiarize the audience with fishery technologies used for daily life, giving them thus an opportunity to think locally and globally. There were 49 participants (26 male), ranging from high school students to those above 70, and comprising people from various professions, housewives, and retirees.

Prof. Niwa, Kano, and Ohi guided the practice of making fish paste products, and participants could enjoy tasting their own products. Prof. Maekawa, Iwaki, and Sakuma introduced them to Ise Branch, Mie Prefectural Fishery Research Center at Shirako to learn rearing methods of edible sea weeds and shells.

Lectures were made with the help of various kinds of audio—visual apparatus, including “Internet” viewing through computer.

The titles were as follows ; —

Prof. M. Hoki : Environment and the utilization of biomass energy

Prof. Y. Nagata : Viewing sea from satellite



三重県水産技術センター伊勢湾分場でノリやアサリの育て方、採取法を学ぶ

Learning how to rear edible sea weed and sea shell in Ise Bay Branch, Mie Prefectural Fishery Technology Center

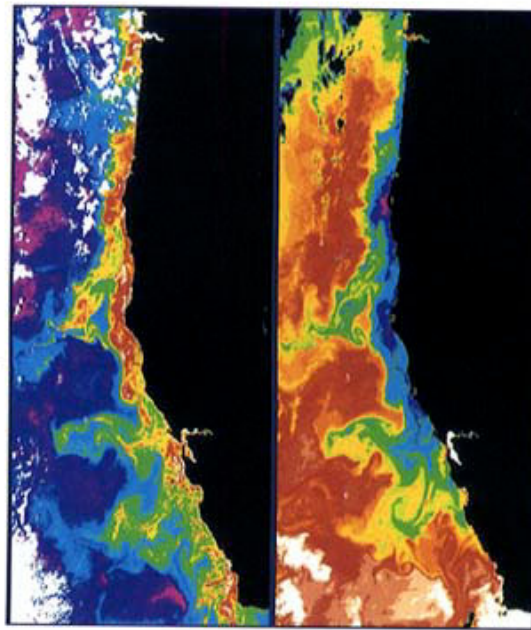
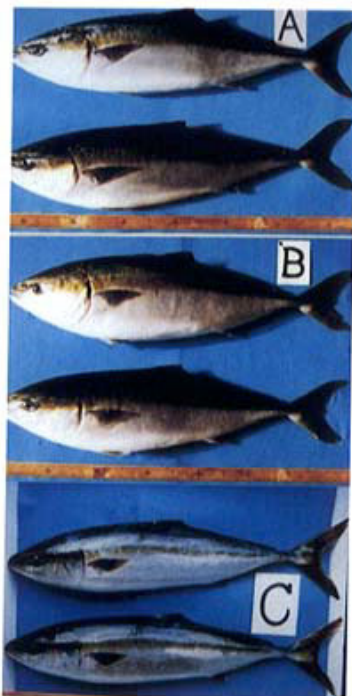
違いについて話されました。沿岸の生け簀で飼うよりも沖合いの大きな生け簀で飼うほうが、天然ものに近い体型や品質のものが得られるようになってきました。

宮崎照雄先生は“健康でおいしい魚を育てる”という題で、養殖魚がしばしばまずく、異臭がするのはどうしてかを話されました。

溝口 勝先生は“環境回復技術への挑戦—土壌科学の立場から—”という題で、土壌の働きの中で、環境を保全し、私たちの生活をうるおいのあるものに行っていることを、コンピューターの画面からスクリーンに写しだしながらお話されました。そして講演の最後で、インターネットで生物資源学部のホームページなどを見せました。受講者の人気はよかったです。

三井昭二先生は“森林や山村がなくなると都市は？”という題で、森林の多様な機能の保持は快適な市民生活に必要なであることを力説されました。脇田正彰先生は“飽食時代における牛乳の栄養的価値”という題で、カルシウム源としての牛乳の意義と健康な食生活のあり方を話されました。大宮邦雄先生は“草を牛肉にかえる微生物”という題で、人間が食べられない繊維質の植物を肉に変えてくれる牛の反すう胃の中にある微生物の話がされました。

一部には難解な講演もあったけれど、概して判りやすかったというのが受講生の一般的反響でした。



人口衛星からとらえた7月のカリフォルニアの沿岸の写真

右 表面水温分布を示す。沿岸沿いの青-紫の部分は下層の冷たい水が上昇して温度が低い。

左 同じ場所の海水の藻類の存在量を表す葉緑素の分布。赤い部分は葉緑素が多い。水温の低いところに葉緑素が多い(NASA—永田豊 提供)

Pictures of California Coast taken from satellite on July 8, 1981.

(Right) Ultraviolet picture, showing the distribution of surface sea water temperature. Blue-purple color along the coast indicates lower temperature.

(Left) Picture of chlorophyll distribution as indices of aquatic biomass. Red color indicates the abundance of chlorophyll along the coast with lower temperature, upwelled from the deeper layer.

As. Prof. S. Mitsui: How would be city life without the surrounding forests and villages?

Prof. T. Miyazaki: Rearing healthy and tasty fish

Prof. K. Ohmiya: Microorganisms converting grasses to meat

Prof. T. Morishita: Natural and artificially reared fish

As. Prof. M. Mizoguchi: Soils as environmental protectants

As. Prof. M. Wakita: Milk as nutrients for healthy modern life

The participants' evaluation of the lectures and practices was fairly well, though some felt it difficult to understand.



筆者プロフィール

渡邊 巖

生物資源学部教授 (農学博士)

1932年生

Profile

Iwao WATANABE

Professor, Faculty of Bioresources

(Doctor of Agriculture)

Born in 1932

養殖法の違いとハマチの体型比較 (森下達雄提供)
Fish body sizes of Yellow Tail, as affected by rearing method

洋上体験教室「海に学ぶ」

On the Educational Experience on the Ship for "Studying the Sea"

生物資源学部附属教育研究施設では、1993年「農場」1994年「演習林」に続いて1995年「練習船勢水丸」にて



練習船 勢水丸
Training Ship "Seisui Maru"(329 ton)

公開講座を実施した。「海」は地球上の約3分の2の面積を占め、人間の生活に密接な関係を持つが、最近の子どもたちは水泳もプールで泳ぎ、「海」と親しみ遊ぶ機会が少なくなっているので受講者を若い世代の小学校5、6年生とした。

この「海」に親しみ、幅広い知識や理解を深めてもらうため、「練習船勢水丸」(329トン)に体験乗船させ、身近な伊勢湾を航海しながら実際に海洋観測等を行なうとともに、伊勢湾の航行船舶の状況や伊勢湾沿岸を海上から観察させることにした。

講義題目

「伊勢湾の漁業」 生物資源学部 教授 小林 裕
「伊勢湾の生物」 生物資源学部 教授 河村章人
「伊勢湾の海洋環境」 生物資源学部 助教授 小池 隆
「伊勢湾の船舶交通」 練習船勢水丸 船長 石倉 勇
「船の生活」 練習船勢水丸 一等航海士 内田 誠

船の定員から受講者を26名としたが、夏休みということで速やかに定員を満たし、男子10名女子16名が参加した。

8月5日(土)9時半 松阪港「練習船勢水丸」前岸壁にて「開講式」を行なった後、乗船し安全教育、避難訓練等の指導を行ない、見送りの父母にも船を理解してもらうため船内の案内をした。11時 甲板から父母に手を振りながら賑やかに松阪を出港した。

松阪沖から津スポーツセンター沖、伊良湖水道付近を航海して、17時 鈴鹿市沖に碇泊した。出港後自己紹介を行なったが子どもの天性か？学校が違ってもすぐ互いに友達となり一安心、乗組員とも親しくなった。

The Training ship "Seisui Maru" is one of the Affiliated Facilities of the Faculty of Bioresources, Mie University.

"Seisui Maru" made the voyage around the Ise Bay for University Extension in August 1995, following the Experimental Farm in 1993, and the Experimental Forest in 1994.

The ship loaded twenty-six school children (10 boys & 16girls) and went to sea for two days.

The title of lectures.

"Fishery of Ise Bay", by Professor Hiroshi Kobayashi

"Creature of Ise Bay", by Professor Akito Kawamura

"Oceanic environment of Ise Bay", by Ass. Professor Takashi Koike

"Ship's Traffic of Ise Bay", by Seisui Maru Captain Isamu Ishikura

"Life on the ship", by Seisui Maru Chief Officer Makoto Uchida

The first day, the voyage began from port of Matsusaka, bound for the Ise Bay.

The children had a guided inspection of the inside of the ship. Then they collected plankton and examined it carefully through the microscopes.



操舵練習
Drill of steering

The second day, they enjoyed playing ropes, and doing marine observations. Each child was given a certificate of completion by the Captain at the end of

航海中「伊勢湾の船舶交通」の講義及び行き交う大型船や漁船の観察、操舵室にてレーダー、操舵練習、機関室の見学をした。

伊勢湾口付近ではプランクトン採集観測、海水の透明度測定後、「伊勢湾の生物」の講義と採集したプランクトンを万能投影機、生物・実体顕微鏡を使った観察をした。

夜間は「伊勢湾の漁業」の講義と魚釣り、伊勢湾沿岸の夜景観賞、星座観測、余暇はトランプ等で遊びながら楽しく一日目を終了した。

8月6日(日)6時10分 全員起床し甲板に集合してラジオ体操、裸足になり海水にて甲板洗い、朝食とした。8時過ぎ 錨を揚げ四日市沖の伊勢湾シーバースを見学して伊勢湾中央部に向かい、「船の生活」の講義と甲板上でロープの結び方及び「伊勢湾の海洋環境」の講義と海洋観測（CTD観測、採泥）を行なった。

13時 後部甲板にて「閉講式」を行ない、船長から各人に修了証書を授与した後、14時 父母の迎えの中、松阪に入港して全員元気で下船し解散した。

両日とも各地で30℃を越える猛暑となったが、伊勢湾では風弱く海は平穏であったので船酔いの心配もなく、猛暑は後部甲板上に日除け天幕を張って防ぎ、室内はエアコンが効いているので受講生は皆元気一杯であった。

「練習船勢水丸」としては初の公開講座であり、また小学生の乗船も初めてであった。県下4市4郡の14校から参加があり、女子が多かったのは意外であった。

講義は飽きのこないように設定し、テキストは読みやすく理解しやすく図解、写真を多くとり入れた小冊子を作成して配布した。

船内生活であることから安全面の確保に特に留意し、受講生を4～5名編成の6班にわけ、各班に乗組員の班長をおき生活面の指導、世話役に専念させ対応した。

5、6年生に限定したのも体力、知識が同じ位でやりやすかった。洋上生活自体初体験の受講生は、講義や観測ばかりでなく終始好奇心旺盛で一泊二日の日程ながら“海”“船”について楽しくいろいろと見聞体験し理解を深めていた。海の生物関係、操舵練習、魚釣り、ロープの結び方等に特に興味があったようである。

後日のアンケートでは、このような公開講座を再度受講したいと好評であったので、受講生のなかで将来生物資源の方面に進んでくれる人があるのではと期待している。

(1996年 公開講座は「水産実験所」の予定です。)

the journey.

I hope that some of children in this voyage will go the way to Bioresources.



甲板洗い
Washing on deck



プランクトンネット曳網
Towing Plankton net



筆者プロフィール

石倉 勇

生物資源学部助教授（水産学士）

附属練習船勢水丸船長

一級海技士（航海）

1939年生

Profile

Isamu ISHIKURA

Associate Professor, Faculty of Bioresources(Bachelor of Fisheries)

Director of Training Ship "Seisui Maru" First Grade Maritime Officer (Navigation)

Born in 1939

21世紀の地域医療と看護 Regional Medical Care and Nursing in the 21st Century

公開講座は、大学教育の成果を広く一般国民にも享受する目的で戦後新しく設けられた。しかし、この制度は、現在教育法制上も具体的な枠組みが確立されていないことから、逆に各大学の自主的な判断と工夫次第により豊富かつ多彩なものが開設しやすい形にもなっている。本学医療技術短期大学部においても、看護教育を通じて広く国民の保健医療の向上に寄与する人材を育成するという設置目的を受けた形で、平成5年度から独自に学内で公開講座を開設してきた。

平成7年度においては、過去2年間とは趣きを変え、「地域に密着した講座を開催してこそ意義が深い」との考え方を重視して、会場を学外に移し、講師陣等スタッフが現地へ赴き、地方公共団体等との共催により実施す



救急医療実習
Training Session on Emergency Medical Care

るという形式を採用した。事前準備に多大な時間を費やし、予算確保にも苦勞した反面、地域住民の方々や共催関係者の方々からの心暖まる感謝のおことばをいただき、恐縮すると共に、出前講義の意義深さを再認識する機会ともなった。

平成7年9月1日(金)、2日(土)の両日、北牟婁郡御浜町中央公民館において三重県熊野保健所、御浜町、紀南医師会との共催により、「21世紀の地域医療と看護」をテーマに、熊野市周辺の市民一般を対象に平成7年度三重大学医療技術短期大学部公開講座が開催されたわけであるが、何故この地域を選んだかの理由は以下の如くである。即ち、熊野・紀南地域は県下はもとより全国的にも最も高齢者が多い過疎地域であるにもかかわらず、救急医療告示機関の不足や老人医療主体の診療問題とも相まって僻地医療の問題を顕在化させているからに他ならず、本学医療技術短期大学部としても看護職の育成という特色を生かして、同地区特有の問題点解消と地域医療



開講式
Opening Ceremony

Keeping with the concept that “Holding lectures which have a close bearing on regional medical care is what’s most meaningful”, we decided to hold the lectures in the Kumano-Kinan District under the joint auspices of the Kumano-Kinan Public Health Center, the medical association, and other public organizations. There were two reasons for this: ① Despite the fact that the Kumano-Kinan District is a depopulated area with the highest proportion of elderly persons in Japan, the emergency care system and measures to cope with medical care for the aged are clearly inadequate. ② As we conduct nursing education, and make the most of this special position, we recognize the unique problems of the district and aim to contribute to the development of regional medical care. We held 5 lectures, a panel discussion



受講者との質疑応答
Hot discussion between audiences and a lecturer

の発展に貢献すべく、講義、実習、パネルディスカッションの複数形式により各講座を展開した。

講義は「地域医療の現状と将来」(出口克巳・本学医療技術短期大学部教授)、「高齢者社会と青年について」(河合優年・本学医療技術短期大学部教授)、「子供の健康と食事」(杉本陽子・本学医療技術短期大学部助教授)、「高齢者のQOL(生活の質)を考える」(谷井康子・本学医療技術短期大学部助教授)の4題目により、パネルディスカッションは、梅田一清・紀南病院長、竹内義廣・熊野保健所長、二村昭・紀宝町健康管理担当参事、加藤葉子・紀和町役場保健医療官、溝口道子・紀南病院総婦長、河合優年・本学医療技術短期大学部教授ら6人のスタッフにより、実習は明石恵子・本学医療技術短期大学部助教授他数名の本学医技短スタッフと紀南地区消防隊との合同により救急医療講習会として各々行われ、当初予定していた80名の定員近くの72名の受講者が集まり、活発な多数の質問があり、熊野地区住民の関心の高さがうかがわれた。さらに、今回限りでなく今後も頻回にこうした講座を実施することや、あるいは本学の方に地域の方々に直接来ていただいて問題点を討論し、対策を立てていくこと等も重要と考えられた。

受講者は10代から70代まで広範囲に及び、男女比はおおよそ1:3の割合で構成され、うち57名の者が、開講時間数9時間の3分の2以上に当たる6時間以上の聴講者として、閉講式において修了証書が授与された。講座内容の中で特に聴講者の関心の高かったのは、パネルディスカッションであり、地域医療の現状がリアルに浮き彫りにされた。例えば、救急車がないために一般の乗用車を救護車として利用し、搬送中に十分な治療ができないだけでなく、これらの判断を保健婦が交代で24時間体制により行わなければならない等の実態であった。さらに、救急医療講習会の実習では聴講者全員との触れ合いも強く感じられ、大幅に時間が延長されたほどであった。

熊野灘を望む風光明媚なこの地区で(写真)、あたかも熊野水軍が大海へ向かって航海(公開)するかのような気運になる程、ホットな講義の場となったことに感激したのは決して我々だけではなかった。

さて、平成8年度においても、同様の趣旨企画で公開講座を実施するか否かについてであるが、南北に長く、東に海、西に山を控え、人口密度も北部に極端に集中し、若年人口の流出の著しい本県の地域の特殊性に鑑みると、三重県の県庁所在地に位置する本学医療技術短期大学の果たすべき使命なり役割というものも自ら導き出されてくるように思われる。

(協力者:本学公開講座委員 伊藤彰男教授、池田浩子助手、高岡秀事務長、早川正庶務係長、宮崎正己会計係長、小野浩司学務係員)



本学公開講座スタッフ
Staffs of College of Medical Sciences-teachers and office men

and a training session on the emergency care, with a capacity of 80 persons and 72 in attendance. The debate, in which contributors to the district's medical care served as panelists, highlighted the harsh realities of regional medical care. Moreover, the emergency training session was conducted so enthusiastically that it ran far past the scheduled time. In the beautiful setting of the Sea of Kumano, it seemed that everyone had taken a step forward in the development of this district with enthusiasm matching that of the Kumano-Pirates who set sail on the bounding ships long time ago.



筆者プロフィール

野口 孝

医療技術短期大学部教授(医学博士)

1947年生

Profile

Takashi NOGUCHI

Professor, College of Medical Sciences

(Doctor of Medicine)

Born in 1947

第3回法医病理夏期セミナー

— 第3回国際法医学シンポジウムジョイントミーティング —

The Third Summer Seminar of the Japanese Association of Forensic Pathology

— Joint Meeting of the Third International Symposium Advances in Legal Medicine —

日時：

1996年9月3日～1996年9月4日

場所：

千里ライフサイエンスセンター
大阪府豊中市新千里東町1-4-2

招待講演者：

日本 2名、ドイツ 1名、イギリス 1名、USA
1名(予定)

参加費：2,000円

代表者：

三重大学医学部教授 福永龍繁

問い合わせ先：

〒514 三重県津市江戸橋2丁目174
三重大学医学部

電話：0592-32-1111 内線6381 Fax：0592-31-5014

Date：

3th～4th September 1996

Venue：

Senri Life Science Center
1-4-2 Shinsenrihigashi-cho, Toyonaka, Osaka

Presentators：

Japan: 2, Germany: 1, U.K.: 1, U.S.A.: 1,

Open to the Public：2,000yen

Coordinator：

Tatsushige Fukunaga
Professor, Faculty of Medicine, Mie University

Office：

2-174 Edobashi, Tsu-shi, Mie 514
Department of Legal Medicine, Faculty of Medicine, Mie University

Phone: 0592-32-1111 ext.6381 Fax: 0592-31-5014

第38回日本小児血液学会総会

38th Japanese Pediatric Hematology Association

日時：

1996年9月5日～1996年9月6日

場所：

合歓の郷
三重県志摩郡浜島町

招待講演者：

Dr.Kaplan(U.S.A) 他2～3名

参加費：10,000円

代表者：

三重大学医学部教授 櫻井 實

問い合わせ先：

〒514 三重県津市江戸橋2丁目174
三重大学医学部小児科

電話：0592-32-1111 Fax：0592-31-5213

Date：

5th～6th September 1996

Venue：

Nemuno-Sato
Hamajima-cho, Shima-gun, Mie

Presentators：

Dr.Kaplan from U.S.A. and two or three others

Open to the Public：10,000yen

Coordinator：

Minoru Sakurai
Professor, Faculty of Medicine, Mie University

Office：

2-174 Edobashi, Tsu-shi, Mie 514
Department of Pediatrics, Faculty of Medicine,
Mie University

Phone: 0592-32-1111 Fax: 0592-31-5213

第26回日本腎臓学会西部学術大会

The 26th Annual Meeting of Western Section of Japanese Society of Nephrology

日時：

1996年9月20日(金)～1996年9月21日(土)

場所：

三重県四日市市文化会館

三重県四日市市安島2-5-3

招待講演者：

日本 6名

参加費：8,000円(予定)

代表者：

三重大学医学部教授 川村寿一

問い合わせ先：

〒514 三重県津市江戸橋2丁目174

三重大学医学部泌尿器科

電話：0592-31-5026 Fax：0592-31-5203

Date：

20th(Fri)～21th(Sat) September 1996

Venue：

Mie-ken Yokkaichi-shi Culture Hall

2-5-3 Yasujima, Yokkaichi-shi, Mie

Presentators：

6 from Japan

Open to the Public：8,000yen

Coordinator：

Juichi Kawamura

Professor, Faculty of Medicine, Mie University

Office：

2-174 Edobashi, Tsu-shi, Mie 514

Department of Urology, Faculty of Medicine,
Mie University

Phone：0592-31-5026 Fax：0592-31-5203

第90回日本薬理学会近畿部会

— 細胞シグナリングと遺伝子発現機構 —

The 90th Kinki Branch Meeting of the Japanese Pharmacological Society

— Cell Signaling and Gene Expression —

日時：

1996年10月25日

場所：

三重県総合文化センター

三重県津市一身田上津部田1234

参加費：

一般会員 4,000円

評議員 5,000円

代表者：

三重大学医学部薬理学教室 田中利男(教授)

問い合わせ先：

〒514 三重県津市江戸橋2丁目174

三重大学医学部薬理学教室

電話：0592-31-5006 Fax：0592-32-1765

Date：

25th October 1996

Venue：

Mie Center for the Arts

1234 Kouzubeta, Ishinden, Tsu-shi, Mie

Open to the Public：

General member：4,000yen

Councilor：5,000yen

Coordinator：

Toshio Tanaka

Professor, Molecular & Cellular Pharmacology,
Mie University, Faculty of Medicine

Office：

2-174 Edobashi, Tsu-shi, Mie 514

Molecular & Cellular Pharmacology, Mie University,
Faculty of Medicine

Phone：0592-31-5006 Fax：0592-32-1765

平成8年3月

編集発行

三重大学広報委員会

委員長 藤原 和好

委員 久慈 利武 織田 揮準

 川原田嘉文 玉置 維昭

 上野 隆二